

【担い手不足について】

○意識改革

- ・高山祭に関わりのある市民とそうでない市民の両方の意識を変えていく必要がある
- ・様々な立場の人が話し合える場
- ・祭関係者の男女共同参画
- ・行政だけに頼らない意識付け（変えていく勇氣）

○地域の空洞化対策

- ・店舗だけではなく、住人を増やす取り組み（空き家対策など）
- ・一度高山を離れた人に戻ってきてもらえる取り組み

○祭に参加したい人が参加できる仕組みづくり

- ・屋台組独自の手伝いの仕組みを、全ての屋台組でも利用できる仕組みづくり
- ・保存会の法人化や、サポーター制度の導入

○朝日町や神明神社で保管している屋台の復元と柔軟な活用

- ・技術継承（高校生、若手技術者など）
- ・地域間交流、体験

【情報発信について】

○高山祭の価値について発信

- ・高山祭が観光の道具になってしまっている
- ・高山祭の本来の意味を知った上で、祭りを楽しんでもらいたい

○普通に生活していても、勝手に目に入る情報発信

- ・知らないので興味を持ってないという状況を減らす
- ・広報たかやまの特集やSNSなどの活用

○屋台蔵の前に掲載されているQRコードの動画の充実（VR化）

○祭当日だけではなく、事前準備の様子などの発信

【郷土学習や体験機会の充実】

○祭会館（仮）の整備（山王祭の地域）

- ・いつでも、誰でも、祭りについて学べる場所
- ・祭を疑似体験できる場所（屋台を曳く体験など）

○飛騨世界生活文化センターの活用

- ・修理で取り外された部材など、歴史的に貴重な資源の一元的な管理体制づくり
- ・高山祭の企画展示など、郷土学習への利用

○実際に体験できる機会

- ・西小学校で行われている子どもたちを屋台に乗せる取り組みを、市内の他の学校へも広げる

○地域での教育の充実

- ・祭の宗教的な意味など、学校の郷土学習では教えることができない部分については、地域で教えていく必要がある

【経済的支援について】

○クラウドファンディングやふるさと納税の活用

- ・屋台を曳く体験などを返礼品にするなど

○観光客や企業等からの財政的支援

○行政からの財政的支援の強化